

世界に存在感のある大学生を目指して



総合政策学部長

はやし しょういち
林 昇一

桜花の候、ご入学を心から祝福いたします。中央大学は、歴史ある日本の有力大学です。

現在、世界に存在感のある大学を目指して、教授、職員、卒業生（学生といいます）が中心になって、新たな戦略構想に基づく発展計画を進めています。いずれ入学できて良かったなと思えるようになるでしょう。そのとき皆さんは、学問に心をひかれる自分を発見していることでしょうか。大学は切磋琢磨するところ。大いに青春を謳歌し、生涯の友と出会い、相互に成長して欲しいものです。その第一歩になればと、エール

の言葉を贈りたいと思います。

大学生活の第一歩は、目標の設定です。将来の方向を定めなくてはなりません。人まねはだめです。自分をしっかり抱き締めてあげられるような確信に満ちた目標を立てましょう。

これからは、ご両親とは精神的に自立してゆかねばなりません。物質上は、まだまだ臍の緒はとれません。精神的には、自己責任・自己管理意識をしっかりとたなければなりません。

ただ、現在の日本はデフレ経済で、明日がはつきり見えないのも事実で

す。目標など立てられるかと反論したくなる気持ちはわかります。犯罪は増え、失業者や自殺者まで出ていくこの社会に絶望したくなる気持ちは、分からなくはありません。しかし、何のために学問をするのかをしっかりと考えて欲しいものです。学問とは、困難に挑戦する意欲を養い、困難を克服する術を編み出すことです。最高の学問の府である大学は、最高の困難に挑戦する場であればなりません。もしそうでないとすれば、この暗い日本の将来はどうなってしまうのでしょうか。

なのかを知らされました。それから何十年か経って、その時のケネディの演説を大学生として聞き、その感動を忘れなかったビル・クリントンが、大統領選挙で国民に同じことを訴え圧勝しました。国に何をしようかと考えて欲しいと。

かつてご存じのジョン・F・ケネディは、大統領選挙の最中、国民に向かって「国に何をしてもらえるかではなく、国に何をしようかと考えて欲しい」と訴え国民の絶大な支持を獲得できました。そのとき私は、この国の社会性の高さに感動したものです。個人主義の国でも、社会性をもつことがいかに重要

もちろん、アメリカにも多くの欠

点があります。不完全な人間が社会を動かしているのですから。しかし、我が国の場合はどうでしょうか。わたくしには、この国に何がしてあげられるかよりも、国に何かをして欲しいと甘える国民が多いように思えます。甘える国民によつては、国の明日はありません。衰退こそ明日の運命でしょう。しかし、悲観からの決別のためには、皆さんは、明日の日本をイメージして、何を今なすべきかを真剣に学問しなければなりません。どうぞ充実した大学生活を送って下さい。